自主防衛力の強化を求める請願

請願の目的 **～日本の平和と安全を守るために**

この20年間、中国は毎年二桁以上の軍拡を続けている。一方の日本は軍縮を続け、今では物理的戦闘力で中国に圧倒される状況になっている。このまま軍事的インバランスを放置すれば、日本の平和と安全は脅かされる。国を守るには、十分な防衛力を整備し、周辺国との軍事バランスを取ることが求められる。

中国の軍事力 **～看過できない異様な増強**

海、空、宇宙へと中国の軍事力増強、拡大が止まらない。米国防総省の年次報告書によると、南シナ海などでの中国の軍事力拡大を「東アジアの軍事バランスを変える主要な要因」と位置づけた。原潜や空母などへの投資、宇宙・サイバー戦能力、弾道ミサイル増産など、軍拡ぶりに懸念を強めている。

南シナ海に臨む海南島の戦略基地化は、日本への原油の８割が通過する「死活的に重要な国際シーレーン」に対する介入能力を意味し、輸入大国日本にとって看過できない動きだ。

日米同盟の無力化狙う中国 **～自衛隊のみでは、国防はできない現状**

中国は日本、台湾、ベトナムからインド洋に至る第１列島線、日本からグアム、サイパンに至る第２列島線まで米海軍が近づけない囲い込み作戦を達成しつつある。中国はすでにミサイル潜水艦４０隻の配備を完了した。これは米空母を近付けさせない戦略である。中国は第２列島線の制海権確保に通常型空母を２隻建造する予定だ。中台軍事均衡はすでに中国に有利に展開しており、中国はさらなる軍事拡大をエスカレートさせ、日米安保による防衛力は事実上、無力化されつつある。

米国と日本が中国の海洋覇権確立を放置すれば、台湾は侵略され、日本と韓国は中国の属国になると言っても過言ではない。それを防ぐ手段がないからだ。

中国と領土問題を抱える各国の対応

東南アジア各国が５年で軍事費をほぼ倍増させた。スウェーデンのシンクタンクによると、２００５～０９年の５年間で、０４年までの５年間に比べ、マレーシアで８倍、シンガポールで２倍、インドネシアで８４％増だ。

領有権と海底資源の確保を理由に、周辺国が対立する南シナ海で高まる中国の軍事的脅威が背景だ。

日本の防衛費 **～削られる「抑止力」**

中国の国防費は過去１０年で約４倍、米国や韓国も２倍以上になったが、日本だけが５％減っている。平成２２年度予算案での日本の防衛費は約４兆７０００億円で、国内総生産（ＧＤＰ）比１％未満にすぎない。これに対して中国の国防費は２００９年で約４７２９億元（約７兆１０００億円）に達した。

公表された国防費は主な支出区分を含んでおらず「実際には１・８～２・５倍はある」（防衛省関係者）とされる。駐日米大使のルースは平成２２年１月の講演で、「防衛費のＧＤＰ比は韓国が２・７％、中国は４・３％、米国は４％以上。隣国が世界で上位３０以内に入るなかで、日本は１５０位だ」と述べ、暗に防衛費増額を求めた。

日本も独立を維持するため、最低限の自主防衛力が必要です。

紹介議員一覧

国会法に基づく請願であり、紹介議員が必要となります。

稲田朋美　（福井県選挙区　参議院議員）
北村茂男　（高知県選挙区　参議院議員）
西田昌司　（京都府選挙区　参議院議員）
松村祥史　（熊本県選挙区　参議院議員）

完成後、紹介議員確認。まだ使用できません。

177国会

請　願　事　項

この20年間、中国は毎年二桁以上の軍拡を続け、一方の日本は軍縮を続けた。軍事力の不均衡を放置すれば、わが国の独立が失われる危険がある。これを防止するため、早急に自主防衛力の強化と日米同盟の連携強化などを急ぐべきである。

①わが国と周辺諸国との軍事力のバランスを取るために、速やかに防衛費の増額し、海空の自衛力の増強など、防衛力整備を図ること
②自衛隊を、禁止規定（ネガティブリスト）で動けるよう法改正すること
③日米同盟を再構築し、同盟強化を図ること
④政府は非核三原則、武器輸出三原則見直しの専門者会議を設置すること
⑤防衛産業の疲弊を直視し、武器輸出三原則を見直すこと
⑥子ども手当、高校授業無償化、農業所得保証などのバラマキ予算を廃止し、防衛予算に充てること

衆議院議長 殿　参議院議長 殿

氏名	住所

完成後、紹介議員確認。まだ使用できません。

草案完成　2010/10/01

署名簿は自筆・ボールペンで記入してください。未成年・外国籍の方も請願可能です。

請願書送付先

〒862-0954
熊本県熊本市神水1-15-40
木原稔事務所（請願書在中）

※ 署名簿は大切な個人情報です。代表して集めた方・団体は取り扱いに注意してください。また署名簿は目的以外には使用できません。記入済みの署名簿は、「請願書在中」と書き郵送にて送付してください。（お手数ですが切手を貼って投函願います）

※ 追加で請願書が必要な場合は、下記URLよりダウロードできます。進捗報告・詳細説明も兼ねています。その他にも国民の利益を考えた請願を掲示しており、議論・提案も可能です。是非アクセスしてみてください。

SNS-FreeJapan
政治を語る国民の集い
http://sns-freejapan.jp/

子供達の将来に、不要な重みを背負わせないために！
ご賛同いただけるかたの署名をお願い致します。

製作・著作　㈱カウンターカルチャー　代小坪慎也
SNS-Free Japan 請願部 企画四課